

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 観光はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

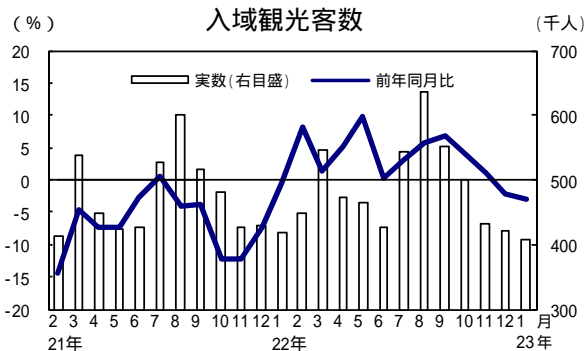
	前回(平成22年11月)	今回(平成23年2月)	
景況判断	持ち直しの動き	足踏み状態	
観光	緩やかに持ち直している	おおむね横ばい	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光はおおむね横ばいとなっている。

入域観光客数のうち、国内客については、11月は個人旅行は前年並みだったものの、修学旅行などの団体旅行が堅調に推移したことなどにより前年を上回った。12月、1月は路線縮小などによる提供座席数の減少などにより前年比減少に転じた。外国客については、11月は前年2回あった大型クルーズ船の寄港がなかったことにより前年を下回った。12月は前年2回あったクルーズ船の寄港がなかったものの、航空定期便の増便などで空路客が順調に推移したことにより前年並みとなった。1月は韓国や香港などからのチャーター便や定期便による送客が堅調に推移したことなどにより前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテルは前年を上回ったものの、リゾートホテルは前年を下回っている。



#### 入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

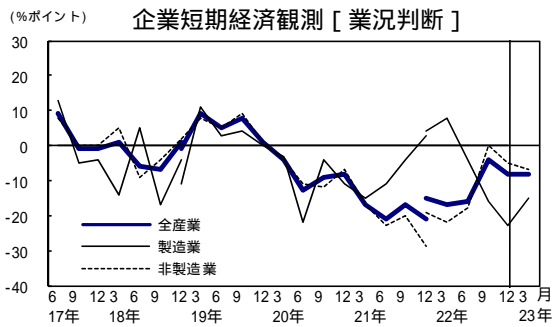
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
入域観光客数	1,365	1,730	1,351	406
(前年比)	5.1	5.1	1.1	2.9
ホテル稼働率	65.8	81.3	60.2	-
(前年差)	0.2	6.3	1.0	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

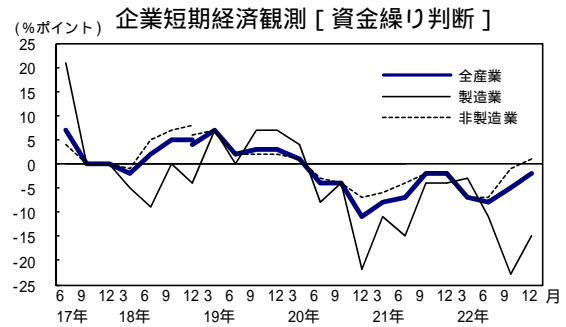
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

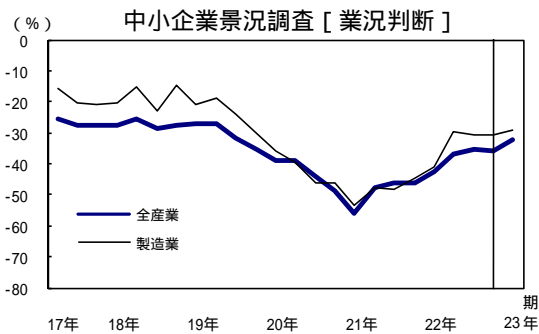
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

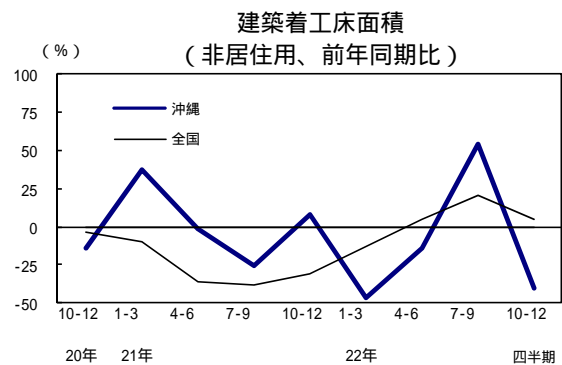
「久米島地区の受注量などの落込みを、宮古・八重山地区でカバーできている(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	28.8	15.5 (17.0)
製造業	44.9	14.6 (6.9)
非製造業	25.3	15.7 (22.1)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。石油・電力を除く。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

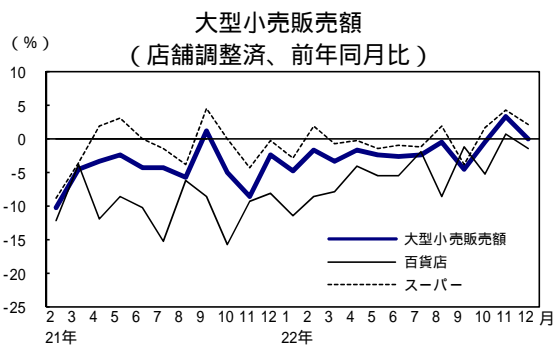
百貨店販売額、スーパー売上高

百貨店は、10月はセールスの効果により衣料品の売上は前年並みだったものの、食料品、身回品などが低調に推移したことから前年比減少幅が拡大した。11月は衣料品催事の効果がみられたことや、気温低下により冬物衣料品の売上が好調だったことから、前年を上回った。12月は食料品の売上は前年並みだったものの、衣料品や雑貨などが低調に推移したことから、前年を下回った。  
スーパーは、気温低下に伴い衣料品が好調だったほか、引き続き旺盛な家電需要がみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「客が特売時に集中するようになっている。しかし月間累計では来客数の伸びは無く、依然として前年比マイナスが続いている。客単価は前年並みに戻ってきているが、来客数が悪く、売上も3か月前と変わらない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

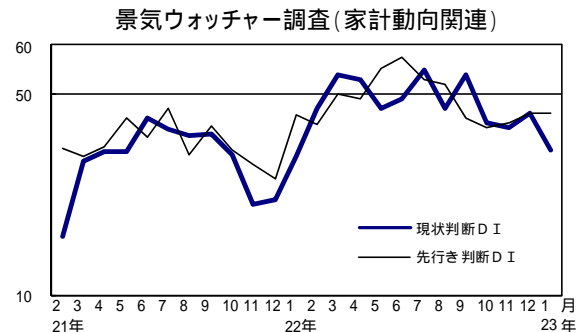
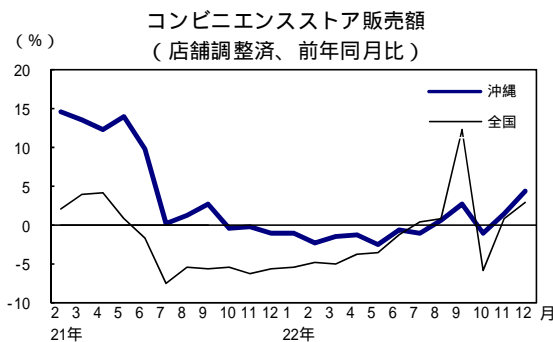


	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.4	2.4	2.6	0.8
百貨店	9.5	5.2	4.1	1.9
スーパー	0.9	1.0	1.0	2.5
乗用車	24.3	35.7	17.5	30.5
景気ウォッチャー	46.2	49.7	51.9	44.6

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行別荘支店調べ(いずれも既存店)

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均

3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は22年度累計でみると前年度を下回っている。

